

第6回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

1. 日 時 令和7年12月18日午後6時30分～午後7時57分（1時間27分）

1. 場 所 調布市教育会館 301研修室

1. 出席委員 委員長 阿部 光
副委員長 徳永 孝正
委員 阿部 隆行
委員 川端 宏志
委員 門脇 義徳
委員 葦澤 加代子
委員 藤堂 文子
委員 高橋 慎一
委員 奥山 尚
委員 三井 豊
委員 泉 健一郎
委員 深沢 典充
委員 松谷 知彦
委員 山岸 義大
委員 村岡 佳太

1. 事務局出席者 指導室学校経営支援担当主幹 門田 英明
指導室副主幹兼指導係長 久保田 藤郎
指導室指導主事 高木 克将
指導室指導主事 岩田 歩
スポーツ振興課長補佐 吉野 秀郷
スポーツ振興課スポーツ振興係長 澤井 昭宏
文化生涯学習課長補佐 石戸谷 寛

1 開会

○阿部委員長 皆さん、こんばんは。それでは、定刻となりましたので、第6回目になります調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催させていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、今回も司会を務めることとなります教育部長の阿部です。よろしくお願いいたします。

この間、少し期間が空いてしまいましたけれども、前回は8月22日、かなり暑い日だったと記憶していますけれども、そこから4箇月近くたった中で、この間、それぞれワーキンググループが動いていまして、いろいろな事業展開も少しずつやっていると。また、これからもトライアル事業等も大いにやるところもありますので、そういったところも含めて、こういうものを進めていくというようなことになろうかなと思っています。

昨日の新聞で、東京新聞ですとか、あと朝日新聞などにも出ていましたけれども、我々は前々から調布モデルという言葉を使っていたのですが、東京都が東京モデルということで発表したということで、都独自ということらしいですけれども、地域の団体が運営主体となる地域展開をやったりとか、複数の学校で連携して拠点化でやっていくものとか、あと外部人材の活用。3つの方法を地域の実情に応じて取り入れるというのが東京モデルということらしいのですけれども、こういったものを東京都も先日、16日ですか、東京都教育委員会の方で発表したという報道がありました。

我々、前々から調布モデルということでやっていたので、前回の調布モデルの骨子だとか、そういったところをこの場でいろいろ話をさせていただいたところでもありますけれども、今回まずは、少し時間がたっていますので、この後、事務局から前回の振り返り等をしっかりしていただいた中で、本日もいろいろ議論を進めていきたいなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに事務局から資料の確認をお願いいたします。

○事務局（久保田） 皆さん、お集まりいただき、ありがとうございます。教育委員会指導室の久保田と申します。よろしくお願いいたします。

本日、4点の資料をお配りしております。一番上、次第でございます。2点目がこの委員会の名簿でございます。3つ目は、今回の中でも御説明で触れさせていただきますけれども、調布市の中学校部活の地域連携・地域移行に関する情報を集約しているポータルサイトをこの間で立ち上げを行っております。それに関する周知の資料となります。QRコ

ードもありますので、ぜひこの後アクセスしていただければと思います。そして、4点目がこの横の資料でございます。こちらに沿いながら、本日は御説明させていただければと思います。

以上4点でございますが、過不足ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。——ありがとうございます。

では、資料の確認は以上になります。

○阿部委員長　ありがとうございます。

それでは、毎回お話をさせていただいておりますけれども、この会議の公開について、まずお知らせをしておきたいと思っております。本日の議事内容については録音させていただき、記録を作成の上、後日、ホームページにて公開を予定しておりますので、あらかじめ御了承いただければと思います。

2 事務局説明

○阿部委員長　それでは、早速ですけれども、次第に沿って進めたいと思っております。

次第の2になります。事務局から、まず説明をお願いいたします。

○事務局（岩田）　指導室指導主事の岩田でございます。よろしくをお願いいたします。

私からはスライドの01、前回検討委員会の振り返りについてお話しさせていただきます。

それでは、スライド4をまず御覧ください。令和6年12月に策定した、調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画についてです。目指す将来像のポイントは2つです。1点目は、地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという意識で取り組むこと。2点目は、生徒が生涯にわたって、地域の中で主体的に様々なスポーツ・文化芸術活動を楽しむことができるまちづくりです。この目指す将来像を踏まえ、推進目標を令和9年度以降、可能な限り早期にすべての休日部活動において、地域連携か地域移行を実施し、生徒が地域人材等による技術指導を受けられていると示しています。

続いて、スライド5を御覧ください。令和9年度以降、すべての休日部活動における地域連携・地域移行の実施に向け、今年度は、地域移行、調布モデルの検討に向けてとトリアル事業の方向についての2点を重点とし、取り組んでまいりました。

スライド6を御覧ください。国や東京都の示す部活動改革と地域移行・地域展開の現状及び考え方については、最新情報を踏まえ、後ほど御説明いたします。

次に、スライド9を御覧ください。スライドは令和7年度の検討体制を示しております。

ワーキンググループでの議論を重ね、検討部会、検討委員会に話を上げていく枠組みとなっております。

スライド10を御覧ください。各ワーキンググループの検討テーマ及び主な検討事項についてです。取組を進めていくためには様々な議論がありますが、まずはグループAの運営体制に重点を置き、調布モデルの原型となる全体スキーム検討とトライアル事業の企画を進めてきました。

スライド11を御覧ください。スライド11は前回資料を更新しています。今回の検討委員会の次第にもあるとおり、今年度のトライアル事業について報告させていただくとともに、国の最新動向にも触れ、次年度以降の展開について議論ができればと考えております。本日の議論を踏まえ、3月に方向性をお示しする流れを考えております。

スライド12を御覧ください。検討部会とワーキンググループについてです。8月の検討委員会以降、ワーキンググループにおいて議論を重ねてきたところです。

スライド13を御覧ください。調布市においては、目指すビジョンである、生徒が生涯にわたって地域の中で主体的に様々なスポーツ・文化芸術活動を楽しむことができるまちづくりが進められていることに向けて、地域連携、地域移行の2つの手法を両輪で進め、部活動改革を進めていきます。

スライド14です。このスライドは、休日の部活動を地域クラブに移行するイメージ(案)となっております。

スライド15を御覧ください。こちらは地域クラブの立ち上げイメージです。調布の子どもたちが今後の部活動に求めるニーズから今の学校で活動に参加できることを重視し、既存の学校部活動の種目をベースに地域クラブを立ち上げていくことを想定しています。

スライド16を御覧ください。調布モデルのスキームのポイントとしては3点ございます。1点目は、調布市スポーツ協会が地域クラブを統括する団体としての役割を担っていくことです。2点目は、既存の部活動種目をベースに地域クラブを立ち上げていくことです。3点目は、多様な地域資源との連携です。

スライド17を御覧ください。地域クラブ運営の仕組みのイメージについてです。各地域クラブの運営に当たっては、地域クラブ間の運営力の均衡を図り、子どもたちの安定的な活動機会を確保するため、指導者の募集、登録、研修の実施、生徒の参加登録、受付と会費徴収、指導者への報酬支払いと保険手配や相談窓口対応といった管理業務を統括団体が事務局として一括して担うことを想定しています。

スライド18を御覧ください。最後に、文化系部活動におけるスキームです。文化系部活動についても引き続き検討してまいります。

○事務局（久保田） ここまでが前回の検討委員会でどのような内容に触れたかというところでございます。前回のところでも、令和7年度、こういう取組をしていきますというところを少しお話しさせていただきましたが、続けての02のパートでは、12月からまさにこのトライアルをやり始めているところですが、その内容について御説明させていただければと思います。

○事務局（澤井） 私からは令和7年度のトライアル事業について御説明をいたしますので、スライド20を御覧ください。先ほど御説明した調布モデルの方向性を踏まえ、令和7年度はトライアル事業を中心とした様々な取組の実行と検証、分析を進めてまいります。現在は実行フェーズの段階であり、トライアル事業の詳細や各ステークホルダーとの調整が終わり、既にトライアルが始まっている事業もございますが、12月から2月までの3箇月間をトライアル事業の期間と位置づけ、集中的に取組を実行し、その検証、分析によって課題を抽出、整理することで運営スキームをさらに精査し、次年度以降の取組につなげてまいります。

スライド21を御覧ください。今年度のトライアル事業は、調布モデルの実証を位置づける中で、様々な実証テーマを設定しております。前回の検討委員会でも紹介させていただいた内容を精査の上、トライアル内容の検討を進めてまいりました。テーマに基づくトライアルの内容については後ほど説明をさせていただきます。

スライド22を御覧ください。今年度のトライアル事業のスポーツ部門に係る実施概要について御説明いたします。現在、学校を始め、様々なステークホルダーと協議、検討が終わり、大枠の方向性を整理したものです。スポーツ部門に関する詳細の実施計画については、この後のスライドで御説明をさせていただきます。

スライド23を御覧ください。ここからは文化系のトライアル事業について御説明をいたします。

○事務局（石戸谷） 文化の内容について、スライド23を用いて説明いたします。

01につきましてはまた御説明いたしますが、複数の部活動一括モデルとして、桐朋学園大学の吹奏楽部として、休日の部活動に、時期としては12月から3月の間で複数回、調布中に派遣するといったトライアルを実施いたします。

02につきましては文化協会と、03については大学連携として、平日の部活動で既存で実

施しております。

05につきましては、今回、検討委員会で新たに御案内する内容となっております、新規として、多様なニーズとして位置づけております。多世代交流モデルとして、対象としては小学校6年生及び中学校1年生を想定しておりますが、こちら、電気通信大学と連携しまして、ロボットクラブ、アマチュア無線の部活動を今、検討しております。先方との調整の中で、実施時期については2月、3月の間で1回を休日で実施していくといった内容となっております。

○事務局（澤井） 続いて、また、私の方から説明をさせていただきますので、スライド24を御覧ください。地域資源の活用モデル、合同練習会、他校交流モデルのテーマ検証として、トップスポーツチームにおける休日部活動の地域連携トライアルに関する資料です。

今年度は連携チームとして、FC東京、読売巨人軍、NTT東日本バドミントン部と連携いたします。サッカー、軟式野球部は全中学校を対象としており、複数校による合同部活動の実施も予定しています。バドミントン部は、第三中学校で実施いたします。実施形態としては、休日にトップスポーツチームから指導者の派遣を受け、部活動として実施いたします。

続いて、連携手法についてです。FC東京とは、FC東京普及部コーチによる技術指導、読売巨人軍とは、各学校で読売ジャイアンツのアカデミーコーチによる技術指導を行った後、指導した内容を踏まえた生徒の発表の場として、令和8年2月14日に稲城市にありますジャイアンツタウンスタジアムでの練習試合を実施いたします。NTT東日本バドミントン部とは、NTT東日本バドミントン部OBによる技術指導を行います。

実施日時については、お手元の資料のとおりですが、12月13日土曜日に、FC東京のトライアル事業を第六中学校で開始している状況でございます。

スライド25を御覧ください。休日部活動の複数部活一括移行方式。既存部活の地域クラブ化、教職員の兼職兼業、スポーツ協会の運営に関するテーマ検証として、調布中学校をモデル校として実施いたします。この間、下段に記載しております顧問教員へのヒアリングや保護者説明会、教員向け説明会を実施し、トライアルの準備を進めてまいりました。

対象の部活動は、上段にマーカーでしております運動部5部活、文化部1部活になります。対象の部活動においては、12月から2月までの3箇月のトライアル期間において、休日の部活動としてではなく、地域クラブとして運営するため、運動部については調布市ス

スポーツ協会、文化部については文化生涯学習課を中心に運営いたします。

地域クラブとして、現在、部活動を指導している教員は兼職兼業制度を利用して、地域クラブの指導者という位置づけで活動し、生徒たちも地域クラブに参加するため、今年度は公費で損害賠償保険に別途加入し、出欠連絡はBANDというアプリを利用して、これまでの部活動とは異なる対応で運営をしております。BANDアプリに関する説明は後ほど行います。

続いて、スライド26を御覧ください。地域指導者の活用、スポーツ協会の運営などに関するテーマ検証として、第五中学校を実施校として実施いたします。対象は、ソフトテニス部の休日部活動です。第五中学校では、指導者が教員ではなく、スポーツ協会の加盟団体に所属する地域の人材が指導者となり、活動します。地域クラブ化を見据えて、学校と可能な取組について精査しておりますが、今年度はいったん部活動としての整理で実施する予定です。現在、実施方針に記載のあるような行政、学校、統括団体であるスポーツ協会指導者において調整を進めております。

スライド27を御覧ください。多様なニーズ、多世代交流地域モデル、地域資源の活用、スポーツ協会の運営に関するテーマ検証として実施する、マルチスポーツに関するスライドです。昨年度に引き続き、玉川大学教育学部と連携し、生徒の多様なニーズに対応するため、既存部活動にない活動として実施いたします。昨年度は中学生のスケジュールの優先度やマルチスポーツの認知度などから集客が困難な結果となったため、今年度については、参加対象者を中学生に限定せず、数年後に中学生になる小学4から6年生をメインターゲットにし、実施内容を気軽に体を動かすことができる居場所づくりを訴求していく形で実施いたします。今週土曜日に第1回目を実施いたしますが、現在16人の児童から申し込みがある状況です。

スライド28を御覧ください。こちらは調布中マルチスポーツにおけるトライアル実施までの流れをまとめたスキームになります。調布中では、保護者説明会実施後、ポータルサイトにトライアル事業の実施情報を掲載した後、保護者にBANDアプリを登録いただく流れとなります。マルチスポーツについては、すぐーるや市報を活用し、保護者に対して案内を送付後、ポータルサイト統括団体である調布市スポーツ協会の申し込みフォームを通じて申し込みをいただいております。

スライド29を御覧ください。こちらは、トライアル事業開始前から開始後におけるクラブ運営に関するスキームになります。スケジュールや出欠管理、事故、けが対応などはB

ANDアプリを通じて行います。

スライド30を御覧ください。調布中で実施するトライアル事業実施の流れをまとめた資料となります。内容は、これまで御説明してきた内容に基づき、実施日確定後においては、スケジュールや出欠連絡をBANDアプリを通じて行います。

スライド31を御覧ください。こちらはBANDアプリの概要資料となります。BANDアプリでは、活動日程の確認、出欠席の登録・確認、活動終了後の報告確認、掲示板の利用、グループトークなどの利用を行うことができます。

スライド32を御覧ください。現在の説明の補足となりますが、BANDアプリでは、アルバム機能やカレンダーも使用することができます。参考に、実際に調布中野球部で使用しているグループ画像を添付しておりますので御確認いただければと思います。

スライド33を御覧ください。調布中の練習スケジュールも掲載しておりますが、資料に添付のような形でスケジュールを確認することができるアプリとなっております。

スライド34を御覧ください。こちらは出欠席の登録・確認や指導者、保護者からのコメント入力も行うことができる画面の確認資料となっております。

スライド35を御覧ください。こちらはトライアル実施時における緊急時対応をまとめたスライドになります。緊急時は運営事務局、指導者がスライドに記載のようなフローで対応してまいります。

○事務局（久保田）　　ここまでがトライアル事業についての説明をさせていただいたところでは。

続けて、03というところになりますけれども、国の最新動向といったところを、部活動の地域連携・地域移行の取組の運用支援ということで入っていただいている事業者であるスポーツデータバンクさんから御説明をさせていただき、その後、今後のロードマップといったところで、また御議論いただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

では、田村さん、よろしく申し上げます。

○田村　　では、国の最新動向と部活動改革の将来像というところで御説明をさせていただきます。スポーツデータバンク株式会社の田村でございます。よろしくお願いいたします。

スライドのページは37ページを御覧ください。今後の調布市における事業の方向性、来年以降の事業に直接、非常に密接にかかわってくる部分ですので、少し詳しく見ていただければと思っております。

こちらに示している部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進等に関する調査研究協力者会議というところの会議体で新しいガイドラインを刷新していくといったところの見直しについて議論を進めてきております。この会議の主な検討事項が赤字で示されております。最終的には、現行のガイドラインを刷新しまして、新たに部活動と地域クラブ活動に関するガイドラインを策定するといったところがこの会議体の目的です。会議は6月から始まりまして、最終9回目まで実施されております。

それぞれの会の主な議題や主要な会議資料の名称等を並べております。特に赤字になっている部分、重要と思われる部分を示しております。ざっと俯瞰してみたところ、議論の幅も深さも非常に多岐にわたっておりまして、包括的なガイドラインの見直しを考えていると我々はとらえております。

続いて、38ページ目、次のスライドを御覧ください。第8回会議で示された新ガイドライン策定までのスケジュールがこちらです。現時点ではパブリックコメントも終わりました、9回目の会議も終了するというところまで来ております。ここまでは示されたスケジュールどおりに進行してまいりました。あとは新ガイドラインの公表を待つだけというのが現在地ですけれども、本日、既に12月中旬ということもありまして、当初より公表が遅れているというのが現状でございます。

ここからは新たなガイドラインがどのような形になるのかという中身を見ていきたいと思っております。39ページを御覧ください。

まず前提、御理解いただきたい注意点としましては、こちらの資料ですけれども、10月30日に実施されたパブリックコメント時点の案の段階の資料を基にしております。公表が遅れているといったところからも恐らく最終確定版の調整というところで非常に時間がかかっていると思われまして。公表される新ガイドラインでは様々な点で変更になる点も多数あるかと想定されます。その前提で、本日は大まかな議論の方向性ですとか、新ガイドラインが示そうとしているもの、そういった多くの部分の御理解を進めるという観点でお聞きいただければと思っております。

新たなガイドラインの骨子（案）のポイントという資料がこの会の資料でございましたので、そちらから全体像を整理していきたいと思っております。

まず、現在、改革推進期間である令和7年度が終わりまして、8年度からは改革実行期間として、13年度までの6年間を設定しているとなっております。その間、休日の部活動はすべて地域クラブ活動でという明確な目標が恐らく示されるものと見ております。平日

についても地域の実情に応じて取り組むという示し方になっております。こちらがその改革期間というところを書いてあることです。

その下の取組方針というところも、休日、平日というところで示しております。

その下の認定制度という新たな仕組みの部分を御注目ください。これは一定の要件をクリアした地域クラブを対象に、公的な支援や大会参加等の推進を図るという枠組みでございます。後ほど詳細を御説明します補助金とセットで考えるととらえやすいかと思っております。

現行のガイドラインと新しいガイドラインの変更点。細かな点で申しあげますと、新ガイドラインの方ではこちらのページの右側に赤い吹き出しで示しておりますけれども、活動時間の制限が緩和される可能性が高いと見ております。現在は、土日の活動はどちらか1日となっておりますけれども、週当たりの活動時間と休養日を調整できれば、土日連続で活動するといった柔軟な対応が可能になる可能性が高いです。

認定制度の下です。地域展開の円滑な推進に当たっての対応という部分に関しては、推進体制、各種課題への対応、ニーズ反映・参加促進等と3つの中項目がございます。こちらに含まれるものはどれもこれまで市で議論してきたものが多数含まれますけれども、今後、より議論の対象を広くするというテーマも複数含まれております。

次の40ページを御覧ください。こちらでは認定制度の概要を見ていきたいと思っております。

まず一番上の趣旨の部分です。重要な記載がございます。まず1つ目、国が認定制度の要件を示すとあります。また、2つ目、市町村等が認定するという点も重要です。この資料には、市町村が改革の責任主体としてという記載がございまして、それと連動した市町村がこの認定制度を運用していくという立て付けになると思われれます。

中段には、認定された地域クラブは、調布市の場合ですと、調布市認定地域クラブという呼び方になりますけれども、公的な支援などの対象になるという設定になっております。

その下、手順を見ますと、実施主体。この資料で定義されているところの地域クラブそのものですが、認定の対象となりまして申請を行うという形になっております。それらを統括する運営団体が取りまとめをしまして、市町村に申請。市町村側がそれを受理し、認定を行うという流れになっております。

1点、留意すべき点はその下の下段の※1というところを御覧ください。市町村が自ら運営する地域クラブ活動は認定したものとみなすとなっております。

続いて、41ページ目を御覧ください。こちらはこの認定制度による認定要件の概要にな

ります。示されたこちらの①から⑦の部分を御覧ください。公表される新ガイドラインとともに、この認定要件の詳細版がどの程度の粒度、細かさで出てくるのかというのは、現状、ちょっと不透明な部分がございます。

ただ、この時点で明確にポイントになるのは、まず③参加費の部分です。国が示す目安を踏まえてとございます。低廉な参加費を設定するというのがまず1つ目の認定要件。

2つ目のポイントは⑥です。認定地域クラブは、原則として営利目的は不可という点です。ただ、この部分は、パブリックコメント後の第9回の資料を見ますと、多少緩和された表現が使われているのを見受けられましたので、最終確定版でどのように出てくるのかというのは注意深くチェックする必要がございます。

最後に、⑦学校との連携の部分です。ここは新ガイドラインでは恐らく明確に示されると思われる点です。学校部活動の改革が進みますと、部活動は学校から切り離されて、今後一切かかわらなくてもいいのではないかと考えていらっしゃる教員の方もまだまだいらっしゃるのではないかと考えられます。一方、国の方は、この部活動改革を進めるには、学校も地域クラブと連携する必要があると明確に示してくると思われまます。言い換えると、学校も地域の一部ですよという解釈です。実際にもともと部活動で使っていた学校施設ですので、地域クラブとして利用する場合など、例えば学校との調整や協力が必要不可欠なのは明らかでございます。教員の方々への丁寧な説明ですとか理解促進、意識改革なども今後必要になってくると考えております。

その下、認定制度がそもそも何のためにあるのかという点についてです。想定される認定の効果、メリットというところでは、③希望する教員の兼職兼業という部分に関しては、先ほどの学校の連携というところとセットで考えていく部分です。②公的な支援の部分です。こちらは後ほど説明する国からの補助金とセットで考えたいと思っております。④大会・コンクールへの参加に関しては、今後、注意深く対応が必要な部分です。

もう少し詳しく見たいと思います。42ページ目を御覧ください。現在、ローカル大会などですと、もう既に地域クラブでも参加ができている種目だとか大会などは存在しております。一方、中体連の公式大会などに関しては、まだまだ種目ごとに地域クラブでは出場できないとかいうような部分もございます。今後は中体連の公式大会なども地域クラブで出場できるようにというところを見越した上での新ガイドラインになっていくと思われまますけれども、今後、土日が完全に地域クラブへ移行したとしても、まだ平日に部活動が残っていて、そういった併存期間に関しては、現状、大会参加は学校の部活動をベースにと

いう対応をしているような自治体もございますし、今後、調布市としてもそういった対応も一応検討に入ってくるのではないかと考えられます。

また、報道を見ますと、こちら、認定制度の議論の中では、この報道のコピーの画像の下段の方にご覧いただけますけれども、中体連の理事の方々が、認定を受けていない地域クラブは中体連主催大会に参加できないとガイドラインで示すべきだという要望があったというふうに報道されております。最終的には、中体連自身でビジョンを示すようにというところで議論が終わっているようではございますけれども、この点、新ガイドラインの公表とともに、中体連の動きも注視していく必要がございます。

次の43ページを御覧ください。先ほど認定制度の方は補助金とセットで考えるべきだというように触れました。この資料は先日公表されました令和7年度の補正予算の資料でございます。今年度の予算で既に補助金という形で新たに予算を検討しているということになります。金額が執行できる自治体がどれぐらいいるかといった点も気になりますけれども、この資料からは、来年度も恐らく同じような枠組みで補助金が運用されるのではないかとこの点を注目していきたいと思っております。

まず、そもそも今年度、改革推進期間までは国の委託事業としての予算でございました。新ガイドラインの策定と併せて、補助金という形に変更になっております。こちらに示されているとおり、補助の割合がまず(1)地方公共団体の体制整備という部分では、国、都道府県、市町村で3分の1ずつとなっております。次いで、(2)の平日も含めた重点課題への対応という枠ですけれども、こちらは国が10分の10となっております。このような補助の枠組みを基に、今後は部活動改革や地域展開を考えていく必要があるということになります。特に市の事業としまして、財政面、収支のバランス等をどう持続的に体制に持っていくかという観点も重要になってくるということになります。

ここまでをまとめますと、新ガイドラインで今後注意深く見ていく必要がある点は、大きく3つになると思われまして。1つ目は、改革実行期間の設定と、その間に休日は部活動から地域クラブ活動へという明確な目標設定が含まれる点です。2つ目は、責任主体は自治体であると明確に示されたので、その責任の下に認定制度と補助金の運用を行っていく体制になると思われることです。3つ目は、地域という枠組みの中に学校も含まれて、地域クラブと学校は連携する必要があるというように明確に示されると思われる点です。

最後に、44ページ目を御覧ください。ここまで見てきた資料の内容を基に新ガイドラインを前提とした地域クラブ活動はどのような在り方になるのかという想定案を見ていき

いと思います。

まず、先ほど申しあげた事業の責任主体は、市町村など地方公共団体になるという定義。その責任の下に認定制度を運用している。認定された実施主体、つまり地域クラブは認定地域クラブとなり、補助の対象となる。

現在、トライアル事業で進めている従来の部活動を地域クラブに置き換えるような形で自治体直轄で運営していくものに関しては、こちらで示しているようなAの直営型という位置づけで、これは先ほどのみなし認定の範囲に含まれると思われます。一方で、新たな種目などで、既存の団体が自治体直轄の運営団体の傘下に入っている場合。これはBの自主運営型と見えるかと思われます。さらに自治体直轄ではない、もう既に既存の団体が市から直接に認定を受けて、傘下の加盟団体を認定地域クラブとするもの。これがCの型です。さらに、認定を受けない民間の事業者やクラブチームなどはDの方に分類されるというような考え方になると思われます。

ポイントは、自治体直轄の運営団体以外に既存の運営団体が傘下に認定地域クラブを持ってよいと。運営団体は複数あってもよいという解釈になるという点です。このような形で子どもたちの活動機会を確保するようになった場合、認定制度の細かな運用とセットで補助の中身、設計といった点も今後も重要な観点になってくると思われます。

○事務局（久保田） ありがとうございます。今の御説明いただいたような国の動向や流れも踏まえまして、次からの04、今後のロードマップというところで、次年度以降、令和8年度以降の取組の案を今回はお示しさせていただきたいと思っております。

まず令和7年度、本年度は、地域クラブというものを運営するというところのトライアルを実施してきているわけですがけれども、令和8年度、またこのトライアルをやっていくというときには、その先、9年度以降、どうやっていくのかといったところとの接続を意識していく必要があると考えています。そのため、今回、これまで計画の中で、令和9年度以降、可能な限り早期にということを書いてきましたけれども、この中身を少しずつ具体化していく必要があると考えておりまして、その辺りの案を御説明させていただければと思っております。

○事務局（高木） 指導室の高木でございます。

それでは、46ページから今後のロードマップ案について御説明させていただきます。大きく3つのスライドについて御説明をいたします。

スライド46を御覧ください。1、国の動向を踏まえ、そして、2、その下の市の取組概

要になります。これについて、スライドのとおり、まとめております。

目標としましては、令和9年度以降、可能な限り早期にすべての休日部活動において、地域連携か地域移行を実施することとし、令和12年度以降は、可能な限り早期に平日を含む部活動において、地域連携か地域移行を実施することを掲げています。

2の市の取組概要の下段の右側を御覧ください。地域連携の欄で、今お示ししております三角形のように、外部人材による指導の拡充を進めながら、徐々に地域クラブ活動への移行を促進していきます。そのため、運営体制、施設、教員のかかわり方、財源について、引き続き検討を重ねてまいりたいと思います。

次のスライドでは、令和9年度以降、可能な限り早期について、どのように進めていくかの案をお示しさせていただいています。

それでは、47のスライドを御覧ください。上段は休日について、下段が平日を表しています。すべての休日部活動における地域連携か地域移行の実施につきましては、令和9年9月ごろを目途に想定しております。この意図としましては、一般的には、学校部活動において、中学校3年生が夏休み前後で引退し、1、2年生の新チームの発足に合わせているためです。

その下、スライド下段、四角囲みを御覧ください。令和9年度中に可能な限り、休日の部活動を地域クラブ化する流れについては3点、考えております。まず、部活動指導員や外部指導員の充実を図り、地域連携を推進します。次に、地域連携ができていない部活動には地域指導者を優先導入し、地域クラブ化を図ります。そして、地域連携ができていない休日部活動については、体制が整い次第、地域クラブ化を図ります。

なお、地域クラブ化した部活動から受益者負担による運営を想定しております。具体的な金額や実施時期などにつきましては、国の動向や地域クラブの運営体制整備と併せて検討してまいりたいと思います。また、平日部活動の本格移行についても、活動時間や指導者の確保など、そういった視点から、引き続き検討していきたいと思います。

最後に、スライド48を御覧ください。こちらのスライドは、市立中学校部活動の地域クラブ化に向けた令和8年度から令和10年度までの具体的な取組をお示ししております。ピンク色の部分につきましては、市教育委員会及び市長部局の取組、下段、黄色は、各学校の取組を示しています。

令和9年度の本格移行に向けて、令和8年度はすべての学校で地域クラブ化のトライアルが必要であると考えています。そのため、令和8年度は、各学校2部活以上、休日の部

活動を地域クラブとして実施することを検討し、トライアル期間についても、今年度は3箇月間ですが、来年度は期間を延ばして実施する方向で検討しております。また、トップチームと連携した取組や新規の種目に関する検討も継続してまいりたいと思います。そのほかにも部活動の指導時間や施設の利用体制、指導者確保に向けた体制整備を進めてまいりたいと思います。

○事務局（久保田） 事務局からの説明は以上です。

3 質疑応答・意見交換

○阿部委員長 今、事務局から、前回の検討会の振り返りから始まり、今後のロードマップ（案）で一括して説明をさせていただきました。ちょっと途中で止めて、それぞれ質問をいただこうかなと思ったのですけれども、いったん全部聞いていただいた中で皆さんから御意見等をいただければなというところで進めさせていただければと思いましたので、まず最初に説明をさせていただいたところです。

それでは、今、事務局から説明した内容について確認ですとか、例えば、質問等があればいただきたいと思いますけれども、皆さん、何か確認したいところとか、あとは意見でも結構ですし、何かありますでしょうか。はい、蕪澤さん、お願いします。

○蕪澤委員 SHCクラブです。うちのクラブは子どもたちも入っている教室、サークルもありますし、こういう事態になって、中学生がどこで学校以外の部活をしていくかというところでの話だと思うのですが、大型スポーツクラブ、当初、調布市でも総体を含め、各中学校区に造るという案もありましたけれども、現実的には、今、学校開放もありますし、ここまで広がっていくことはありませんでしたが、こういう流れになって、学校がちょっと離れていますから、連携というか、休日。例えば、調和SHCクラブだと、調和小学校と大町スポーツ施設がありますけれども、そこで、例えば、調布モデルと言われるトップアスリートではない指導者を迎えての指導が調布モデルの中に入っていき得るのでしょうか。

○事務局（吉野） 指導者の確保という観点とトップスポーツチームの連携という観点が交わるようにちょっと整理が必要なのかなと思っています。例えば、いわゆるトップスポーツチームのOBとかアカデミーの方々というのは、多分地域の指導者の方よりも報酬単価も高かったりする中で、今の国の流れでもありましたけれども、できるだけ保護者の負担が低廉なものという流れの中では、恒常的に入っていただくというのは恐らく厳しい

のかなと思う中で、今回のトライアル事業でもトップスポーツチームのかかわりというのは、いわゆるスポット的な競技力向上、クリニック的な位置づけというのを今のところは整理、実証というのを続けているところです。

一方で、地域指導者、指導者の確保という観点からいくと、今、言ったようにトップスポーツチームの方に恒常的に来てもらうというのは厳しい中においては、例えば、学校の教員の兼職兼業もありながら、地域のスポーツ協会の加盟団体の方の御協力も必要だと思いますし、はたまたそこ以外、例えば、今、御提案もいただいたSHCの方の参画ですとか、SHCだけではなくて、それ以外の地域でいろいろな活動をされているところもありますので、そういったいわゆる地域にいる方、指導者の発掘といたしますか、そういったところ広くとらえて、今後、指導者確保に取り組まなければいけないと思っておりますので、今の葦澤委員の観点というのはしっかり事務局としては持ちながら進めていきたいと思っております。

○葦澤委員　よろしくお願ひします。

○阿部委員長　そのほか何か御質問とか。では、門脇委員。

○門脇委員　スポーツ協会の門脇です。よろしくお願ひします。

今回、トライアル事業について、これまでより詳細な説明がありましたので、12月に入り実際の事業が動き始めている状況も踏まえ、報告的に共有させていただきます。

16ページの「調布モデル」では、当協会を総括団体として位置づけていただき、本年度は職員を1名受け入れ、トライアル事業に向けた準備を進めてきました。教育委員会やスポーツ振興課と月2～3回のワーキングや打合せを重ね、現在12月に入り本格的に動き出しているところです。

24ページの令和7年度トライアル事業の資料については、スポーツ振興課が中心となって日程調整を含め整理を進めてくださいました。教育委員会やスポーツ振興課から各校へ、FC東京・読売巨人軍に候補日を提示いただいたものの、なかなか学校側から日程が返ってこない状況もありました。しかし12月に入りFC東京、年明け1月には読売巨人軍の実施日程の方向性が見えてきて、現在はこの形で進めていく予定です。

12月のFC東京については、13日に六中で実施され、私も参加しました。普段の部活動とは異なる指導内容で、専門外ではありますが、子どもたちも非常に意欲的で、先生方からも「子どもたちの吸収が早い」と好評でした。14日は雨天で中止となりましたが、FC東京としての取り組みはスタートしています。

読売巨人軍については、担当者を1名配置し、時間・日程・体育館の利用など、必要な調整が順調に進んでいる状況です。同時にトップスポーツチームとの契約関係など、関連する調整事項も多岐にわたっており、慎重に進めています。

25ページの調布中学校については、地域クラブ方式のため、生徒情報をいただいた上でスポーツ安全協会の保険に加入しています。BANDアプリについては、全クラブの予定が確認できる仕組みとなっており、先生方に予定を入力していただき、生徒・保護者が参加可否を回答できるようになっています。ただし、クラブによって入力状況に差があり、予定が入らない場合にはこちらで確認しながら入力し、保護者からの指摘を受けて修正することもあります。このように、細かい確認作業を積み重ねながら運用しています。

調布中は12月6日から主に土曜日に地域クラブとして活動を開始しています。練習内容自体はこれまでと大きく変わりませんが、スケジュール管理や出欠確認、活動終了の報告など、保護者が安心して状況を把握できるように運用しています。

11月7日には教育委員会主催の保護者説明会を実施し、多くの質問や意見交換があり、有意義な場となりました。続いて17日には教員向け説明会を行い、黄色いハイライト部分のように、契約関係をしっかり確認しつつ意見交換を行いました。 「調布モデルとは何か」という基本から説明が必要な先生もおり、改めて仕組みを理解していただく重要性を感じました。このように、トライアル事業は我々の考える仕組みを丁寧に伝える機会にもなっており、引き続き丁寧に取り組んでいきたいと考えています。

26ページの第五中学校では、唯一当協会が地域指導員（ソフトテニス連盟の指導者）を派遣する形になります。多くの調整を進めつつ、明日、顧問の先生と指導者が顔合わせを行い、子どもたちの練習の様子を踏まえて意見交換し、可能であれば明後日の土曜日から指導を開始したいと考えています。まずは現在の練習内容を把握するところから始める予定です。

最近学校へ伺う機会が増え、先生方の考え方や温度感も多様であると実感しています。積極的に協力してくださる先生もいれば、忙しさもありスタートに時間がかかる先生もいらっしゃいます。良し悪しではなく、それぞれの事情を理解しつつ、丁寧に意見を伺いながら調整していくことが必要だと感じています。来年度はロードマップにもあるように、対象校が増えますので、何クラブ対応できるのか、当協会の体制も含めて教育委員会スポーツ振興課と共有しながら検討していきたいと考えています。

最後に、27ページのマルチスポーツですが、明後日1回目の実施があり、阿部先生にもご

参加いただきます。今回は初めての取り組みで、小学生16名が参加予定です。しっかり関わっていききたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○阿部委員長　ありがとうございます。今、門脇委員から、トライアル事業がもう始まっているというところの中で、いろいろな調整。学校との調整も結構いろいろ大変だったというようなお話もいただきましたけれども、これからどんどん広げていくに当たって、門脇委員、一番苦労した点。例えば、いろいろな調整だとか、何が一番苦労されましたか。今回トライアルをやっていくのに。

○門脇委員　これまで何度か協議を重ねてきましたが、その中で改めて調整事項の多さを実感しました。各クラブには1名だけでなく複数の先生方が関わっているケースもあり、また、副校長先生と話す機会が非常に多く、校長先生から十分に情報が伝わっていない場面も見受けられました。そうした点は丁寧に確認しながら進めてきましたが、いずれにしても調整が多岐にわたるため、今後は我々の体制整備について、改めて調布市としっかり協議する必要性を強く感じています。

また、現時点では第五中学校のみですが、指導者の確保が大きな課題であることも改めて実感しています。令和8年度に向けては、地域指導者の発掘にも本格的に取り組まなければなりません。この会議でも繰り返し申し上げていますが、「人材確保」「指導者の確保」「体制整備」は今後の大きな課題であると考えています。

以上です。

○阿部委員長　ありがとうございます。やはり学校の校長先生ですとか、副校長先生とか、今まであまりスポーツ協会さんが直接対応していなかったような方々との調整もあるということ。その辺、何か指導室で先生方から聞いていたりしますか。特段何かそういったことで。

○事務局（久保田）　そうですね。指導室も間に入りながら、教員、学校とスポーツ協会の方とのやり取りをさせていただいたところになります。今、門脇委員の方からもあったように、こちらからの話、学校への話というのがこちらのイメージと少し異なっている部分、あと浸透といったところがまばらにあるというようなところは感じるころではありましたけれども、そこは丁寧に指導室の方からもフォローさせていただきながら、取組に協力いただきながら、今回トライアルを迎えたところになります。

スポーツ協会の方々から学校にも連絡をいただいた中で細かなフォローをいただきなが

ら、学校としても安心してトライアルの12月を迎えられたという話は伺っているところでございます。

○阿部委員長　そうですね。やはり学校というところは、外の方から見ると意外と神聖な場所で教育委員会もしっかりとサポートしながら間に合って、コミュニケーションを取れるようにしていく必要があるのかなと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいなと思います。

そのほか何か。川端委員，何か意見とか。

○川端委員　トライアル事業のことをちょっと質問しようかなと思っていたのですが、しっかり御説明いただいたので大丈夫です。

○　　BANDというアプリは普通に落とせるのですか。

○事務局　そうです。無料で。

○　　あれで参加者は保護者が，全部の親がやる。

○事務局　中学生は携帯がない，御自宅にあるかもしれませんが，基本は保護者がやるということです。

○　　分かりました。ありがとうございます。

○阿部委員長　そのほか何かありますでしょうか。スポーツの話ばかりしていますけれども，藤堂委員，何か文化的なところで確認とか御質問とかあつたりしますか。

○藤堂委員　今日お話を伺っていて，スポーツの方はこんなにたくさん進んでいるんだと。文化の方は，今，文化生涯学習課さんの方がいろいろ各校の状況を調べてくださっています。スポーツと違って休日に活動している部活動があまりなく、トライアル事業についても、まずは吹奏楽で桐朋学園大学さんと連携すると伺っています。財団は、せんがわ劇場で演劇部との交流を持っているものの、具体的にトライアルに向けた調整に入っている部分はまだありません。各文化部の状況に応じて、どういった内容が必要なのか、どういう体制で進めていくかなど、スポーツとも少し状況が違うような気がしますので、今後、文化生涯学習課さんと調整していくようかと思います。

○阿部委員長　ありがとうございます。結構ほかの自治体を見ても，やはりスポーツが成功しているケースがかなり多いので，文化は後からついてくるというような。あとは，土日はあまり文化系の部活は，そこまで活動しているのは吹奏楽だとか合唱部もやっているのかもしれないですね。そういう状況からすると，少しスポーツが先行しながら，それを見ながら，いいとこ取りで文化ができるといいかなと思いますので，またいろいろ文化

生涯学習課さんとも連携しながら、財団さんも一緒にいろいろ考えていただけるとうれしいなと思いますので、よろしく願いいたします。

あと、先ほどの説明の中で、国のガイドラインの認定制度があるというようにちょっと説明があったのですが、この辺は事務局側からだと思いますけれども、調布モデル。調布モデルということで、この間いろいろ来ているわけですが、その中で認定制度の案も踏まえて、調布モデル、何か少し考慮しておかなければいけないような点というのは何かありますか。その辺どうでしょう。事務局側から何かありますか。

○事務局（久保田） この認定制度が今、お示ししているように調布モデルの中でどういう結びつきが出てくるのかといったところ、少しイメージがうまくお伝えできればなというところなのですが、現状、お示ししているところでは、スポーツの部門ではスポーツ協会さんが運営の統括団体を担って、各学校の中にある既存の部活単位でまずは地域クラブを立ち上げていこうといったところを想定といたしますか、イメージをしているところになります。なので、これらの地域クラブにスポーツ協会さんが運営団体になっていったところに関しては、基本的には、まずこの認定クラブといったところになってくるのかなと思っています。

一方で、今、現状でも、学校の部活動とは少し独立した形で、地域が主体になって活動をしている団体もあると認識しています。例えば、第六中学校のアルティメット部であったり、第四中学校ではサッカー部などが地域主体になっていて、地域移行のような形で、もう既に行われていると認識しております。そういった活動をこの調布モデルの中でどうやって位置づけしていくのかというのがこの国のガイドラインの案という形になっておりますけれども、これから出てくる情報も注視しながらやっていく必要があると考えています。

また、この認定を受けた際のメリットも資料上は出ておりましたけれども、施設の優先利用ですとか、そのようなことが認定を受けた際のメリットという面もあったところですので、こういったところがやはり施設の利用であったり、それにひもづいて、地域クラブの活動の時間等をどうしていくのかといったような、これまでは運営主体の体制をどうやっていくかというところを中心に議論してきましたけれども、そういったところから徐々に施設のことであったり、時間のこと、そういったことにも議論を進めていく必要があるなというように事務局としてはとらえているところでございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。国の要綱の最新の動向をある程度しっかりとキャッチしながら進めていかなければいけないということも感じるころではありますけ

れども、また、この辺、具体、もう少しいろいろ……これはどうなのですか。どれぐらいからこの認定制度というのはどんどん盛り上がっていくのか、よく分からないのですけれども、今の段階だと、まだ認定制度というのはないのですよね。団体としては。これからこういうものがどんどん増えていくのだろうという……。

○事務局（門田） 指導室，門田です。

今、お話に出たように、認定制度というのを国が新たに示しているところですがけれども、スライド41のところに、下段で、想定される効果というところでメリットの部分が書かれているところなのですけれども、私たち事務局としても、認定クラブの有効性というのは一定程度、効果があるなというのは考えています。

1つとしては、指導者等の研修も行える場がつけられるということを加味すると、質の担保といったところと、あとは公的支援の部分で支援ができるということと、一番大事なのがやはりそういった活動を市として認定をするということで、子どもたちにとってみると、安心・安全な場で活動ができる。これは保護者にとってもそうだと思うのですけれども、そういった場が確保できる制度になるのではないかなというところで、今、一定程度、その有効性については感じているところです。

先ほど久保田の方からも話がありましたけれども、我々市として、そういった認定制度を活用してクラブを立ち上げていくというふうになると、一定程度、その他のクラブとのすみ分けをしていかなければいけない状況が出てくるのではないかなというところも議論に上がってきています。

例えば、インセンティブなどところで行くと、活動場所を優先的に確保するであったり、具体で言えば、活動の場所は主に学校施設になってくるので、学校施設を優先的に使っていただくような制度にしていくであるとか、あとは活動の時間ですよね。優先的に放課後のこの時間帯については認定クラブが使っていただきますというような、そういった運用の仕方も今後検討していく必要が出てくるのではないかなというところでは、1つの議論の中では出てきていますので、大きな国の方向性も含めて、何が本市の取組にとって有効な実態に合った形として運用できるのか。認定制度についても、その1つとして、今後、検討していかなければいけないかなというふうには認識しています。

○阿部委員長 ありがとうございます。国がこういった制度を示して、最新の動向というところで冒頭に御説明がありましたけれども、今、市としての考え方だとか、教育委員会としての方向性なり、考え方を指導室から説明をしたところです。

ただ、国のこういう動向とかまた、東京都は東京都で独自でいろいろなことをどんどん打ち出していくのでちょっとどうなっていくのかなというのはありますけれども、また、今後もしっかりとアンテナを立てながらいろいろなものをキャッチして、よりよいものになるようにつくり上げていければなと思うところです。

あと、先ほどの説明の中で、最後、ロードマップ。今後のロードマップというところで御説明もいただいたのですけれども、もう少し見ていきたいと思うのですが、47ページのところに、地域クラブ化に向けた今後のロードマップについてということで御説明がありました。この辺について、実際にこの時期にこういった取組を進めていくような流れになりますけれども、何か実務的課題みたいなものとか、そういったものは何かあるのかな、どうなのかというところも、その辺、皆さんに御意見等をいただければなと思ってはいるのですが、門脇委員、どうですか。このロードマップ、この感じで無理なく行けそうな感じですかね。どうですか。

○門脇委員　ワーキングでも、この点についてはより細かく議論を重ねてきました。先ほど課題としても触れましたが、調布モデルによる学校部活動の地域移行において、先生方が兼職兼業で継続して関わっていただける場合は、78クラブについても一定程度、持続的に運営できるのではないかと考えています。

しかし、地域指導者の確保が必要となるクラブが増えていった場合、必要な人材を十分に確保できるのかは、現時点では見通しが立っていません。令和8年度からは、地域指導者の発掘を本格的に進めるとともに、実際に「どれだけの人数を確保できるのか」「どれだけの時間帯（休日＋平日）を対応できるのか」など、来年度以降に向けて必要な情報を整理していく必要があると感じています。この部分が大きな課題になると認識しています。一方で、既存のクラブ活動を担当されている先生方に対する研修や計画づくりについては、一定の方向性を持って進められる見込みです。

また、会費や全体運営にかかる予算については、まだ不透明な部分が残っており、こちらも大きな課題となります。こうした課題を一つ一つクリアしながら、多少の前後はあるかもしれませんが、事業としては前へ進めていくことができるのではないかと考えています。

○阿部委員長　ありがとうございます。今、指導者の確保ですとか会費とか、あと、いろいろ課題になってくることが多分あるのではないかなというところも申しあげましたけれども、その辺、例えば、調和SHCさんなどだと、実際に既に総合型地域スポーツクラ

ブを運営する中で、その辺の課題というのはどうですか。最近、クラブの運営などでは、会費ですとか、指導者の確保とか、どんな感じなのでしょう。

○葦澤委員 当初、学校開放と言う形で大町と野川で活動していましたが地域スポーツクラブになり、今、44位あります。最初、指導者やこういう活動をしてみたい方等で募集をかけました。現在は、指導者に対して、競技や内容によって審判資格を持っているとか、経験値のある指導者が指導をしています。謝金については、先生のランクと言うか、それぞれ違う金額をお支払いしています。

月謝については、サークル活動の剣道やソフトバレーの子ども達はサークル費、教室は大体2640円。民間の教室の半額位です。今、ダンスが人気でウェイティングの状態です。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、実際に調和SHC倶楽部の指導者の確保ですとか、あとは実際に地域連携・地域移行の受益者負担のところはかなり大きな課題だと感じられましたので、現状、地域で活動していただいている中でいろいろな話を聞けました。

ここまでいろいろ話をいただいたのですけれども、全体を通じて、また、マルチスポーツのトライアルもこれから始まるというところもありますが、阿部先生から全体を聞いた中で何かあればいただければと思います。

○阿部委員 玉川大学の阿部です。よろしくお願いします。

まず今週土曜日、マルチスポーツ体験会ということで、昨年度、中学生対象でしたが、今年、小学生、中学生対象ということで、集まったのは小学生ということで、ここが何につながるかといいますと、来年度、再来年度、その翌年のマルチスポーツ、中学生になった際のマルチスポーツにつながるのかなというところの先行実施になっております。

あとは、大学生の人材活用ということで、どの大学生でもいいというわけではなくて、今週の実施に至るまでには相当準備をしまっていました。今日はもう小学生16名という情報を聞いておりましたので、小学生16名をどう動かすかというようなシミュレーションをして、今週を迎えます。そうはいつでも、大学生がやることですので、いろいろ失敗したりする中でよりよいものをつくっていききたいなというところの検証になりますので、大学生の活用が調布市に広がっていけばいいかなと思います。

関り方、私としては、全体マネジメントというか、なるべく大学生がメイン指導者としてやるよというフォローの方です。私が教えて、大学生がサポートするのではなくて、もう大学生がメインで教える。全国でもそれほどない貴重な実践かなと思っております。

ほかはメイン指導者がいて、大学生が技術指導のサポートに入るケースなのですけれども、今回のケースは逆ということになりますので、その辺のトライアルを踏まえて、また来年度実施していければいいかなと思います。まずは20日、もしお時間がありましたら、皆さん、運動できる服装で、第一小学校の体育館にお越しいただければ、大学生、小学生と一緒に楽しめるかなと思います。よろしくお願いします。

全体的なところとしましては、スライド48、最後のロードマップになりますし、先ほど来、議論にもなっていましたけれども、やはり指導者の確保というところが今後求められるかなと思っております。門脇さんからもありましたけれども、現職の先生がそのまま外部指導員としてやってくればいいのですが、そうはいってられない状況もあると思いますので、その際に大学生も含めてどう指導者を育てていくか。量の確保と質の確保、両方必要かなと思ってます。

例えば、案としては、調布市主催で部活動指導者講習会みたいなものを開いて、もう囲い込んでしまう。調布市に縁もゆかりもない人たちであっても、例えば、近隣の人で部活動講習会を受けたいと隣の市に住んでいる方が受けてくださったら、その方はもう調布市にゆかりができるわけですから。という形で、例えば、座学の講習会で、〇〇中の〇〇部にまずはトライアルでサポートで入ってもらおうと。何時間サポートしたら、もう認定。座学とそのサポートで認定します。それで、もう独り立ち、1人でできますよみたいな制度があると、早期から、大学生も含めて確保できるのではないかなというところ。

なので、そこも体制整備のところをやってほしいなと思うところと、もう1つ、ロードマップでいうと、地域展開に向けた説明会ということで、今回、マルチスポーツ、小学生対象にしたというところで、今後、将来の中学生の保護者に向けても十分告知していく必要があろうかなと思ってます。その方法についても部会等で議論していただければなと思います。

全体としては、東京モデルとか、国のガイドラインとか、いろいろなものが出てきてはいるのですけれども、調布モデル、ぶれなくやってほしいなと思っております。東京モデルなどは何かざっくりとした、見せていただいたのですけれども、本当に大卒な感じで来ているので、それに左右されることなく、これまで丁寧に議論してきた調布モデルを着々と落とし込んでいければと思っています。

そういった意味からいうと、このロードマップについては無理なくできる範囲かなというところと、先ほど来ありましたけれども、8校になった場合にトライアルですね。BA

NDとか日程のところの調整というのはかなり課題になってくるかなと思います。そういった意味では、少なくとも2部というところが現実的なところなのかなと。いきなり全部地域移行して、BANDを利用してというと、やはり事務局もすごく大変になるということもあります。

というところで、無理ないところから始めて、そこで課題が出てくると思うので、移行事例の課題に関しては、調布全体で共有していければいいかなと思っています。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、総括的に阿部先生からのお話をいただいたので、今いただいたお話を踏まえて、また進めていければかなと思っていますけれども、あと何か全体でありますか。いいですか。

(「なし」との声あり)

4 その他

○阿部委員長 それでは、次の次第4、その他に移りたいと思いますけれども、まず事務局から事務連絡。

○事務局(久保田) では、事務連絡をさせていただきます。事務連絡、2点ございます。

1点目なのですが、次第の下の方に書かせていただきました次回の開催の候補日についてであります。今回は3月の開催を予定しております。今、候補日として2つです。23と27の金曜日ということでお示しをさせていただいたところでございます。今後の調整とはなるのですが、現時点で、各団体の皆様の御都合等があれば、お伺いできればと思っておりますが、いかがでしょうか。――よろしいですか。ありがとうございます。では、この2つのどちらかの日程でさせていただければと思います。また開催通知等は関連団体を通じてお送りさせていただければと思っております。

また、2点目につきましては、本日の議事録等について、こちら、またホームページでの報告といったところを予定しております。また、各団体の皆様、議事録の確認等で御協力いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務連絡については以上なのですが、ちょっと説明のところ、幾つか補足を最後に。今回新しく御説明した内容もありますので、ちょっと補足をさせていただきたいと思っております。

○事務局（門田） 少しだけお時間いただければなと思っています。

スライド47のところになるのですけれども、ロードマップとしてお示しさせていただいているところなのですが、今、門脇委員の方からもありましたけれども、人材確保というところで、やはり私どもも大きな課題に直面しているところがあります。ポイントとなるのが黄色の丸で囲んであるところになるのですけれども、赤い線でお示ししているのが切り替わりのタイミングということでお示ししているんですが、このタイミングですべてばちっと変わる、または変えていけるというふうには、事務局の方でもなかなかそうはならないだろうなというのは考えています。なので、黄色の丸で示させていただいたように、少しそれぞれの活動でスタートが前後していくであろうというようには想定しています。

ただ、令和9年度以降に地域連携か地域移行、すべての部活動ができる状態にしていきたいと考えています。そのために、まずは地域クラブ化する、地域移行する前段階の地域連携の部分を重点的に進めていく。すべての休日の部活動で、まずは地域連携ができるようにしていきたいと思っています。それを踏まえて、段階で①から③に示していますけれども、地域クラブ化を図っていききたいととらえています。なので、9年度以降、まずは学校の部活動を地域連携、どの部活もできるように整えていきたいというところがまず1つあります。

おめくりいただいて、48のスライドになるのですけれども、来年度の取組ということで今、お示しさせていただいているのですが、赤色のところで、令和8年度から取組を予定しています上段1つ目と2つ目になりますけれども、休日の部活動を各学校で少なくとも2部、地域クラブ化を図っていくというトライアルを実施していこうと検討しています。

これは今年度、調布中学校で複数の部活動を一括して地域クラブ化している取組を進めています。人材の確保というところも含め、学校間の調整であったりだとか、スポーツ協会との連絡、調整の部分で、今、様々な課題にも直面しています。これについては、各学校においても、調布中以外の学校においても、やはり今後導入していくに当たって、同じような課題に直面していくであろうとは考えています。それぞれの学校の実情に合わせた取組をまず学校が経験していかないといけないと考えていますので、少なくとも2部、それぞれの学校で地域クラブ化を図ってトライアルをしていくと。これについては、それぞれの中学校区の保護者であったり、地域であったりといったところに対する周知も含めて、アピールできる機会ととらえてトライアルをしていきたいと考えています。

あわせて、トップスポーツチームとの連携した取組についても、今、3箇月間のワンク

ールで実施しているところを長期でやっていくということで、これまでにはない子どもたちへの影響度であったり、あとは、これも地域、保護者への周知活動も含めて、これまでのトライアル期間ではできなかった長期の期間でできる取組をやっていくというところで今、考えていますので、来年度以降、また新たな取組を実施していくということになりますので御支援いただければと考えています。

今、玉川大学の阿部先生の方からも、周知という部分と、あとはその人材確保といった部分で御示唆いただきましたので、指導者の認定制度等も含めて、事務局の中で考えて、より多くかかわっていただける人材の確保に向けて動いていきたいと考えております。

まずは令和9年度以降の活動に向けて、令和8年度、整えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○阿部委員長　今、先ほどの説明の補足ということで説明がありましたので、皆様、御承知おきいただければと思っております。

あと全体で何かこれだけは言っておきたいとかというのはありますか。大丈夫ですか。

（「なし」との声あり）

○阿部委員長　今日、いろいろお聞きしたことについては、またそれぞれの所属に持ち帰っていただいて、しっかりと議論していただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。何かあれば、スポーツ振興課、あと指導室に御一報いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会

○阿部委員長　それでは、本日ですけれども、これをもちまして、すべての議題が終了しましたので、以上をもちまして、第6回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を終了いたします。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。